

1月号

しらすな会 現地サポートも万全! 本紙の特典あり!

南紀サークル 合宿情報

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町2525-4
電話0120-53-1662
http://www.shirasunaka.jp/

神戸大学ニュースネット

NEWS NET

©神戸大学ニュースネット委員会 http://home.kobe-u.com/top/newsnet/index.html
関西学生報道連盟共同編集室 〒532-0011大阪府淀川区西中島3-21-9-502
電話06-6307-1315 FAX06-6307-1316 メールnewsnet@kobe-u.com

今月の紙面

2面:総合文化
4面:震災特集2007
6・7面:総合スポーツ

震災から12年 災害教育シンポジウム開催

被災の教訓伝えよう 有識者が議論



神戸大安全研究センターが主催するシンポジウム「災害文化と災害教育」が11月19日、神戸市産業振興センターで行われた。会場では8人の講演者がそれぞれの視点から見解を述べ、討論が行われた。

神戸大安全研究センターが主催するシンポジウム「災害文化と災害教育」が11月19日、神戸市産業振興センターで行われた。会場では8人の講演者がそれぞれの視点から見解を述べ、討論が行われた。

阪神・淡路大震災の経験から、防災・減災への備えをどのように進めようか、震災中に生かしていくか、震災経験をどのように地域に根付かせ、後世へ伝えるかを討議することが目的だ。

神戸市消防局予防部の西村康男さんは、小中学生ごとに取り組む学校の防災教育について「年代別に知識を積みあげることが大切。しかし大きな災害は年代を問わず同時に襲ってくることも事実。世代的枠を超えた取り組みが必要だ」と提言。小中学生などが広く参加できる「防災ジュニアキャンプ」の活動を紹介した。

神戸大留学生センターの瀬口都子教授は「震災を語りつなぐ会の下村美幸さんは阪神・淡路大震災で被災した留学生の声を紹介した。『彼らは当時、留学生先の神戸で突然の大地震に見舞われた。』先生、今すぐ国に帰りたい」と泣く学生の生きた神戸大生との討論会を14日に開催。17日には神戸大大学院経済学研究科と山東大学経済学院との共同研究会を実施するなど、国際交流行事が盛んに行われた。また、神戸大付属図書館主催の展示会「東アジアのなかの日本」も、学内各食堂で東アジア諸国の料理を取り入れた特別メニューを出品するなどの企画も実施された。

新しい時代を開拓 学内で国際交流推進

神戸大国際交流推進本部主催の「神戸大東アジアWeek2006」が11月13日から17日にかけて行われた。テーマは「東アジア・共鳴と共生」。発展著しい

東アジア諸国と学術および文化交流を積極的に推進していくことが目的だ。

神戸大は2002年に創設100周年を迎えた。これを機に2003年から国際学期間中、東アジアの大学から学生を招いて学生討論会が行われた。(12月14日・六甲ホールで 撮影=西田健悟)



期間中、東アジアの大学から学生を招いて学生討論会が行われた。(12月14日・六甲ホールで 撮影=西田健悟)

術文化交流の活動推進と情報発信を目的に、毎年秋学期の1週間を「神戸大week」で設定し、テーマに沿った行事を学内外で開催している。2004年はASEAN、2005年はEUをテーマに取り上げた。

13日の開会式で野上直行学長は「文化、学術の分野で東アジアの国々が影響を持ってきた。(東アジアweek)お互いの文化を尊重して新しい時代を切り開いていくきっかけとなればありがたい」と話した。

神戸大が協定を結ぶ東アジアの大学から招待した学

少し早いX'mas 学館で韓流コンサート

「Christmas Concert」が11月30日、学生会館第3集会所で開かれた。主催は神戸大学

韓国人留学生会、韓国から駆けつけたゴスペルシンガーの李知勲(イジフン)さんがクリスマスソングを熱唱した。

「誰のためにクリスマスをお祝いするかを伝えたい。李さんは『きよらかな夜』などの日本のクリスマスソングを披露。会場には多くの観客が集まり、韓国料理のチヂミも配られた。

「私は日本が初めてですが、皆さんを前にしてもっと歌

神戸大 閉話

〜其の三十四〜

生きた神戸大生との討論会を14日に開催。17日には神戸大大学院経済学研究科と山東大学経済学院との共同研究会を実施するなど、国際交流行事が盛んに行われた。また、神戸大付属図書館主催の展示会「東アジアのなかの日本」も、学内各食堂で東アジア諸国の料理を取り入れた特別メニューを出品するなどの企画も実施された。

【西田健悟】

神大モダン・ドンチキが参加

須磨青空元気フェス

第12回「須磨青空元気フェスティバル」が伝えた

「青空元気ステージ」でちんどんショーを披露した「神大モダン・ドンチキ」は、演奏をしながら会場内を練

想い潮風にのせて」が11月19日、兵庫県神戸市須磨区の須磨海浜公園で開催された。メインステージの青空元気ステージでは「神大モダン・ドンチキ」がちんどんショーを披露した。

「須磨青空元気フェスティバル」は阪神・淡路大震災の被災者を元気づけようとして1995年から始まった。地元自治会や神戸大学総合ボランティアセンター、神戸大学学生震災救済隊によって企画・運営され、今年で12年目となる。サポーターである「伝えた」には「阪神・淡路大震災のときに多くの人が応援をもらって頑張った。逆に元気を返そう」という気持ちで込められている。会場は模擬店も多数出店し、多くの観客がぎわった。

【濱田直毅】

「伝えた」は「阪神・淡路大震災のときに多くの人が応援をもらって頑張った。逆に元気を返そう」という気持ちで込められている。会場は模擬店も多数出店し、多くの観客がぎわった。

【濱田直毅】

震災特集 2007 4面へ

災害を防ぐには 留学生に震災教育

阪神・淡路大震災をテーマとした災害授業「共に生きる社会」が12月11日、留学生センターで行われた。

多文化理解演習の一環として開かれた授業には、22人の留学生が参加。当時被災した留学生の手記が配られ「震災を語りつなぐ会のメンバーが一部を朗読した。参加者は、英語や母国語の表記と読み比べ、講師の日本語を真剣な眼差しで書き留めた。「災害のときはお互いに助け合おう」と必要。参加者は震災を通して日々の危機管理の方法を学んだ。(4面に関係記事)

【濱田直毅】

災害を防ぐには 留学生に震災教育

阪神・淡路大震災をテーマとした災害授業「共に生きる社会」が12月11日、留学生センターで行われた。

多文化理解演習の一環として開かれた授業には、22人の留学生が参加。当時被災した留学生の手記が配られ「震災を語りつなぐ会のメンバーが一部を朗読した。参加者は、英語や母国語の表記と読み比べ、講師の日本語を真剣な眼差しで書き留めた。「災害のときはお互いに助け合おう」と必要。参加者は震災を通して日々の危機管理の方法を学んだ。(4面に関係記事)

【濱田直毅】

伏流水

▽昨年で12回目を迎えた「神戸ルミネリエ」1995年12月に初めて開催された。阪神・淡路大震災の犠牲者への鎮魂の意と神戸の復興への希望が込められている。毎年、震災で打ちひしがれた神戸の街と市民に大きな感動と勇気希望を与えてきた▽小学生のときに一度だけ家族でルミネリエに行ったことがある。大勢の大人に囲まれ、あまりよく見ることができなかった。それでも、わずかに見えた幻想的な世界は今でも心に残っている▽震災で神戸大では4人が亡くなった。六甲台キャンパスの第一学舎前には慰霊碑が立てられている▽ニュースネットに加入してよかったと思う。そうでなければ、それだけ多くの方が亡くなったかもしれない。卒業生にして無念にも命を落とされた先輩方のことを思うと胸が痛くなる▽震災を直接体験した人もそうでない人も、しかし、12年経った今、どれだけの神戸大生が震災のことを覚えていてだろうか▽神戸の冬の風物詩としてすっかり定着したルミネリエ。希望の光が神戸の夜空を照らすとき、また「あの日」が近づくと、ニュースネットがあるかぎり、震災を風化させてなるものか。

【濱田直毅】

朝日新聞 一週間、購読無料。

この機会に新聞を 読んでみませんか? いまなら一週間お試し キャンペーン実施中!

http://www.asa-takaha.com

朝日新聞ご購入のお申込みは **ASA 高羽**

0120-084013 神戸市灘区土山町1-13

※但し灘区内在住の方に限ります。

3年生最後の舞台 落研の六甲寄席

神戸大落語研究会の「第41回六甲寄席」が11月28日、神戸市中央区兵庫泉民小劇場で行われた。3年生に

よる落語と、2年生による大喜劇が披露され、会場は笑い絶えなかった。

大喜劇では謎解きなどが披露され、観客から出してもらったお題で、3年生が謎解きをした。巧みな謎解きには会場から大きな拍手が起こった。

今回の寄席で会長の中家慎知(かぶとやほんじゅ)さんは「高津の富」を披露。大きな身振りや巧みな語りで観客を惹きつけていた。

寄席を終え、「練習通りで良かった」と話す慎知さんに「練習の良かった」と声をかける部員もいた。

息子の落語を聞きに来たという夫婦は「富の熱意が伝わってくる。元気をもらった」と笑顔を見せた。

今回の寄席で3年生は引退となる。慎知さんは、もっと落研がメジャーになるように頑張してほしいと後輩たちに期待を寄せた。

【上村絵里】

熱唱する李さん (11月30日・学生会館第3集会所で 撮影=濱田直毅)

韓国人留学生会、韓国から駆けつけたゴスペルシンガーの李知勲(イジフン)さんがクリスマスソングを熱唱した。

「誰のためにクリスマスをお祝いするかを伝えたい。李さんは『きよらかな夜』などの日本のクリスマスソングを披露。会場には多くの観客が集まり、韓国料理のチヂミも配られた。

「私は日本が初めてですが、皆さんを前にしてもっと歌

教訓を生かす

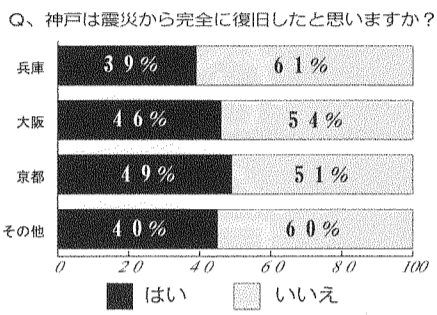
神戸大・関学・神女大 共同編集
震災特集
2007

阪神・淡路大震災から12年が過ぎる。現在の学生の多くが震災当時は、まだ小学生だった。UNN関西学生報道連盟が加盟大の学生610人に実施したアンケートでは、実際に「揺れを感じた」学生は全体の70%に及んだ。被災地から離れた関東や九州に住んでいても、当時の地震を体感した人は少なくない。震災は私たちに多くの傷を残したことは事実だが、同時に教訓も生んだ。今年の震災特集では、震災に対する学生の声を検証し、震災の教訓を生かす学生グループや大学の現場を紹介する。【震災取材班】

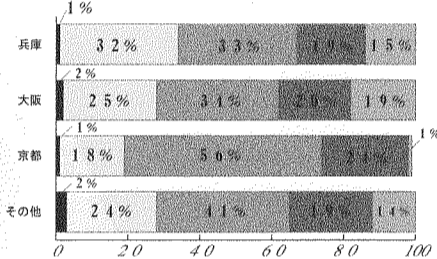
震災の「残すべき」92% 行動に移せない現状

震災が発生した1995年1月17日、被災地では多くの建物が全半壊し、電気・ガス・水道などのインフラも麻痺した。「神戸の夜景が消えた」。当時の学生は、被災地の様子をこぼれ返る「UNNアンケート1995」より。
いま、市街地のほとんどは復興を通じた姿に戻った。しかし「神戸は震災から完全に復旧したと思うか」との質問に、過半数の学生が「いいえ」と答えている(左グラフ参照)。その理由として「震災で更地になったままの場所がある」「表面上は元に戻っても、心の傷が癒えない人がいる」などがあった。「震災について家族や友人と話すことはあるか」との質問に「よく話す」と「ときどき話す」「1月17日が近づいたら話す」と回答した学生は、兵庫県在住者が最も多く48%だった。その一方で「あまり話さない」「まったく話さない」は、同じ兵庫県在住者で52%、京都府在住者では80%となった。震災が話題となる機会は徐々に減少していることが伺える。「震災当時のことを思い出すが、震災がもたらした影響は、被災地から離れるにつれ、「思い出す」割合が少なくなることがわかった。「震災の印象については『あつた地震』くらいにしか思わなかった。テレビでは悲惨な映像が流れていたけど、現実離れしていたイメージで、現実離れしていた」(当時関東地方在住者)。

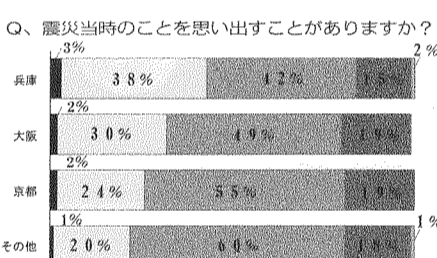
UNNアンケート調査
実施期間：2006年12月3日～9日
回答形式：配布された調査票への直接記入。
回答数：610人
表示結果：居住地別。小数第一位四捨五入。



Q、震災について家族や友人と話すことはありますか?

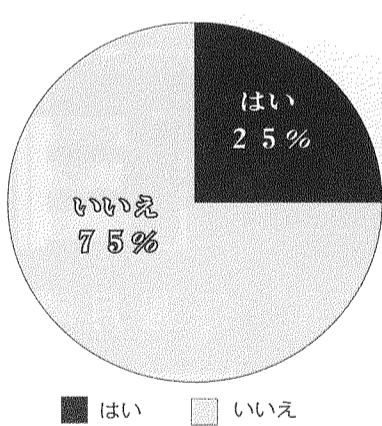


Q、震災当時のことを思い出すことがありますか?

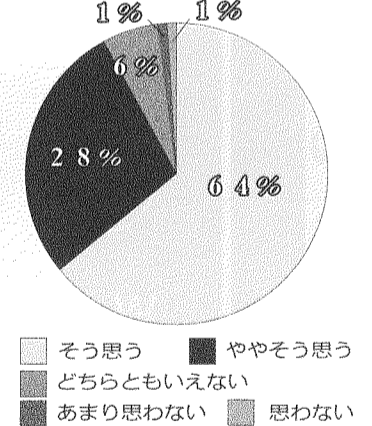


「震災の記憶は世間から忘れられていると思うか」との質問に、学生の70%が「いいえ」と回答。4人に3人の学生が、震災の記憶は今も残されていると考えていた。
「震災の記憶は世間に残すべきだと思いますか?」という問いに、「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生は全体の92%に上った。記憶の風化が取り上げられる中、何らかの形で記憶を次世代に伝えていくべきとする考えが背景にあると思われる。
今回の調査を通じて、継承は大切な課題であることが多く一方、具体的な行動に移せない現状が浮き彫りとなった。

Q、震災の記憶は世間から忘れられていると思いますか?



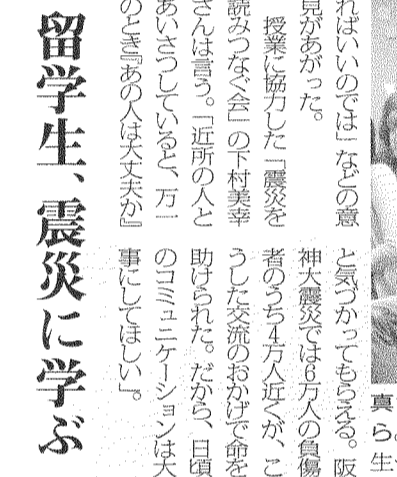
Q、震災の記憶は世間に残すべきだと思いますか?



震災を学ぶ留学生らの授業風景(12月11日・神戸大の留学生センターで撮影=森田 篤)

「あいさつ大事に」

「今から12年ほど前に、神戸で何が起きたかわかりませんが、」
神戸大の留学生センターでの風景。教鞭をふる瀬口郁子教授の問いかけに、学生らが視線を上げた。その顔ぶれのほとんどは、日本に住み始めて間もない留学生だ。今年から神戸大で学ぶ学生たちは、被災した神戸の街の映像を食い入るように見つめた。
留学生が震災について学ぶことは、自分自身の危機管理や「生きる」とは何かを考へるきっかけになるという。
震災当時、神戸大には43か国52人の留学生が在籍していたが、震災によって7人の命が奪われた。「世界の終わりが来た」「戦争が始まった」「六甲山は火山だった」「象が大地を踏み鳴らした」。さまざまな推測やデマが、留学生の間で飛び交った。
留学生の場合、来日して間もない段階では、地域とのパイプやネットワークは少ない。震災では、日本で生活を始めてわずか数か月で被災した学生もいた。災害を減らすために、自分たちでできることは何か。参加した学生からは、震災の知識をできるだけ身に付ける「環境を傷つけない自然を守る」こと、友達とのネットワークをつくる



真剣な眼差しで話を聞く参加者ら。(12月11日・神戸大の留学生センターで撮影=森田 篤)

「震災で傷ついた被災地を元気づけたい。」
こうしたい思いが妻を結び「須磨青空元気フェスティバル」が誕生した。95年の開催から12年。神戸大で結成された学生震災救援隊、総合ボランティアセンターが地元自治会とともに運営に携わる。今年のサファイヤトルは「今もそんなに大変なのよ」との声が聞かれる。そのような現状を受け、学生震災救援隊の小山ひびるさん(神戸大1年)は大変さい地震があったときは注

「世界が終わった」「戦争が始まった」「六甲山は火山だった」「象が大地を踏み鳴らした」。さまざまな推測やデマが、留学生の間で飛び交った。
留学生の場合、来日して間もない段階では、地域とのパイプやネットワークは少ない。震災では、日本で生活を始めてわずか数か月で被災した学生もいた。災害を減らすために、自分たちでできることは何か。参加した学生からは、震災の知識をできるだけ身に付ける「環境を傷つけない自然を守る」こと、友達とのネットワークをつくる

「震災で傷ついた被災地を元気づけたい。」
こうしたい思いが妻を結び「須磨青空元気フェスティバル」が誕生した。95年の開催から12年。神戸大で結成された学生震災救援隊、総合ボランティアセンターが地元自治会とともに運営に携わる。今年のサファイヤトルは「今もそんなに大変なのよ」との声が聞かれる。そのような現状を受け、学生震災救援隊の小山ひびるさん(神戸大1年)は大変さい地震があったときは注

神戸大 地域祭で写真展

「震災で傷ついた被災地を元気づけたい。」
こうしたい思いが妻を結び「須磨青空元気フェスティバル」が誕生した。95年の開催から12年。神戸大で結成された学生震災救援隊、総合ボランティアセンターが地元自治会とともに運営に携わる。今年のサファイヤトルは「今もそんなに大変なのよ」との声が聞かれる。そのような現状を受け、学生震災救援隊の小山ひびるさん(神戸大1年)は大変さい地震があったときは注

神戸から世界へ

「できること」行動に
4人の関学学生が発足させた関学学生指導会は、12年前に起きた阪神・淡路大震災直後、被災児童への学習支援活動を開始した。震災で家をなくし、学校も機能し

「やれること、たくさんある」

人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災を通して実践的な防災対策と兵に生きる素晴らしさを、震災を知らない子どもたちをはじめ多くの人に発信していくことを目指し、設立された。
毎年震災に関連した報道がなされてはいるが、時が経つにつれ、記憶が風化しているのではないかと、その声も少なくない。センター専任研究員の越山健治さん(神戸大幸部・95年卒)は、「確実に風化はしていると思う。10年以上もたてば記憶も薄れていく。だからこそ社会のしくみについて研究を重ねたり、教育という別の形で残していくべきもの」と話す。
越山さんは、学生が震災に



震災を通して「自分たちができることをするべき」と話す安武翔さん(12月11日・ブレイン・ヒューマニティ事務所、撮影=西村愛美)

「震災の記憶は無理やり残すことではない」と思っている。現在のブレイン・ヒューマニティ代表の能島裕介さんは語る。またリクリエーション事業部代表の安武翔さん(関学・2年)は「私たちが何事も現実を目の当たりにしないと思ってしまう。震災は天災で仕方ないことがあったとしても、それが起こっているなあとしか思えなかったという。神戸に来てから「神戸の人から『震災のときいろいろな人から助けてもらった。できることほやう』という精神を感じた」と小山さん。それが震災救援隊への入隊につながった。
「中越地震の被災者のことを」ま、覚えてるよ。小山さんは須磨から中越に温かいエールを送った。

震災から12年。被災地の復旧と時を同じくして人々の心にも変化が生じてきている。阪神・淡路大震災をきっかけにボランティア活動を始めたブレイン・ヒューマニティ。しかし震災以降、世界各地では災害が続いている。震災を記憶として持ち続けるのでなく、新潟県中越地震やイラン地震、インド西部地震などの被災地に高校生を連れていき、復興支援なども行った。自分たちができることを行動に移すことで、震災体験を心の中にとどめるだけでなく、さまざまな問題に取り入れている。

継承の手段、工夫を

研究者の言葉から
「震災の記憶は無理やり残すことではない」と思っている。現在のブレイン・ヒューマニティ代表の能島裕介さんは語る。またリクリエーション事業部代表の安武翔さん(関学・2年)は「私たちが何事も現実を目の当たりにしないと思ってしまう。震災は天災で仕方ないことがあったとしても、それが起こっているなあとしか思えなかったという。神戸に来てから「神戸の人から『震災のときいろいろな人から助けてもらった。できることほやう』という精神を感じた」と小山さん。それが震災救援隊への入隊につながった。
「中越地震の被災者のことを」ま、覚えてるよ。小山さんは須磨から中越に温かいエールを送った。



災害の事実を伝える重要性を話す越山健治さん(12月12日・人と防災未来センターで撮影=齋木陽二)

関西制覇ならず

男子ラグロス

善戦むなしく敗北 「京大強かった」



喜ぶ京大選手陣の前でうなだれるAT鳥居(11月23日・長居球技場で撮影=西田健悟)

関西学生ラグロスリーグ男子ファイナル3(リーグ上位3大学によるトーナメント)決勝の神戸大と京大が11月23日、長居球技場で行われた。神戸大は前半を善戦するも、後半は完全に京大に主導権を握られ、6-12で敗北した。準決勝の関学戦と同じく、立ち上がりの悪い神戸大に対し、京大は洗練されたパス回しから立て続けに2点を奪う。その後も京大の攻撃に防戦一方の神戸大。しかし、第1Q13分にMF山下が1点を返すと徐々に本来のラグロスができるようになった。第2Q中村がゴールを決め、一挙に3点を奪った。圧倒的な攻撃力で神戸大守備陣を崩壊させる。さらに守備力にも磨きがかかり、神戸大オフェンス陣に仕事をさせない。京大は後半、AT中村の4得点を合計7点を奪い、リーグ戦無敵の実力を見せつける。神戸大は主将のMF福原などの得点で反撃するも及ばず、6-12で敗北した。

試合後福原主将は「シーズンを通して初めよりチームは強くなった。ただ、それ以上に京大が強かった。関西制覇まであと一歩と振り返った。神戸大は6戦3勝3敗の3位、ファイナル3に出場し準優勝で秋季リーグを締めくくった。【八幡一平】

母親から花束

4年生選手へ

神戸大アメフト部後援会主催の「後援会・懇親会」が11月25日にホテル阪急エクスポートで行われた。4年生選手への引退式もかねたこの会には4年生選手2人の両親も出席。試合では見ることができない、選手の外側な一面を見ることができた。会後午後5時から始まり、終始歓声が途切れることはなかった。後援会関係者、スタッフの話や来場者は笑顔で聞いていた。会に出席した安井ヘッドコーチは「来年についてはまだ考えていないけど、来年につなげていきたい。特にオフェンスは、神戸大の上位大学に通用するレベル」と来年度の意気込みを見せ、会に続いて「(後援会)は、すごくサポートしてくれている。非常にありがたい。選手、選手の両親にとっても大事なことになる」と話した。途中、4年生選手の親から4年生選手への花束贈呈が行われた。親子が抱きあう場面や親が涙ぐむ場面が見られ、会場は大いに盛り上がった。【西田健悟】

レイバンス引退式 「4年間お疲れさま」



母親から花束を受ける田中主将

同日行われた試合で同志社、近大がともに敗れたため、神戸大はリーグ5位となり、1部残留を決めた。それでも田中主将は「この一年で成長したというよりも目標の甲子園に届かなかった。甘さや足りない部分は補ってきた」と反省した。

1年活躍、京大に2連勝

アメフト 3勝4敗5位

神戸大の最終戦、大産大戦が11月25日にエキスポフィールドで行われた。神戸大は今年、2年を浮かへた。今季2部リーグでは接戦を繰り返すも入れ替え戦に出場。入れ替え戦でも尻上りの展開。「神戸は試合でもリーグでもスロースタート。試合ごとにくまなく」



入れ替え戦で逆転TDを決めたTE東内(11月25日、エキスポフィールドで撮影=西田健悟)

勝利した。同日行われた試合で同志社、近大がともに敗れたため、神戸大はリーグ5位となり、1部残留を決めた。それでも田中主将は「この一年で成長したというよりも目標の甲子園に届かなかった。甘さや足りない部分は補ってきた」と反省した。

アイスホッケー

わずか1年で1部復帰

日野監督「最後で、最高の試合」



「神甲戦」後の4年生選手・マネージャー(12月10日・ポートアイランドスケートセンターで撮影=大野将寛)

関西学生アイスホッケーリーグ1部入れ替え戦が11月26日、関大アイスアリーナであった。今季2部リーグ2位の神戸大は大阪市大(1部リーグ7位)と対戦した。

戦い、神戸大が4-1で勝利し、1年で1部リーグ復帰を果たした。「最高のプレーをしよう」と臨んだ(森島主将)は選手への声かけがよくなり、再三相手のバックを奪った。そしてFW穴場が右サイドの角度の無いところから放ったシュートは、GKの脇を抜け先制。

後半は体力に勝る神戸大のペース。第3P4分、6分とFW穴場が、1部復帰をきくと近づける追加点をあげる。この時間、大阪市大の足が止まりだし、神戸大の完全優位。試合終了間

際、DF森島主将が「リーグを通して初ゴールだったの、うれしかった」と話す。試合終了とともに、ベンチから控え選手らが飛び出し歓喜の渦に包まれた。リンクサイドで監督、主将らが次々と胸上げ。日野監督は「最後で、最高の試合ができた」と満面の笑み

プリンセスボウル

東京ドーム行き阻まれる

切符は武庫川女大の手に

タッチフットボール第15回東西大学座談会決定。プリンセスボウルが11月23日、王子スタジアムであり、神戸大は決勝戦で武庫川女大に27-32で敗れた。同大会は関西1位

を破り決勝進出。武庫川女大(関西1位)とは一昨年の決勝でも対戦し、1点差で敗れた因縁の相手。決勝前半は取った取り返すまじきインプレー。しかし前半終了間際、痛恨のインターセプトTDを許してしまう。後半劣勢に立たされながら、追いつける神戸大。第4Q、村

田へのTDパスが決まり27-32。試合残り10秒には最後の望みをかけた逆転TDパスにWR中勝がタイブするが、失敗。東京ドームへの切符をあっと歩のどころで逃した。高田主将は「ミスが大事なところであった。でも最後まで気が切れなかつた」と悔し涙をこぼした。【大野将寛】

第46回三商大体育大会(三商大戦)の閉会式が12月1日に国際文化学部食堂で行われ、神戸大、大市大、一橋大の応援団が出席した。神戸大は、競技の総合ポイントで大市大と一橋大に差をつけ総合優勝。この優勝で神戸大が2連覇を達成した。

学生向けUR賃貸住宅

UR賃貸住宅(旧公団住宅)

4つのメリットで「新生活応援」。
関西一円、約280団地の安心・快適ライフで「MY ROOM」の夢かなえます。

- 敷金は家賃の3ヶ月分 礼金等は不要
- 保証人も不要でカンタン契約
- 抽選なし・先着順受付
- インターネットで検索カンタン申込!
- 学生向け賃貸住宅のパンフレットをお送りします!!
ご希望の方は下記のメールアドレスへ **無料** k-bjs-02@kansai-boshyu.jp

http://www.sumai.ur-net.go.jp

UR賃貸

UR賃貸

検索

UR賃貸で検索!カンタン申込!!

春のキャンペーン実施中!このチャンスをお見逃しなく!!
敷金分割制度実施中!

春のキャンペーン(平成19年1月6日全~4月15日全)期間中にお申し込みいただけます。一部の団地では敷金を3年分割してお支払いいただけます。

独立行政法人都市再生機構
西日本支社 募集販売センター
大阪市北区南田2丁目2番22号(ハービスエント オフィスタワー12階)

お問い合わせお申し込みは ☎06-6346-3456
http://www.ur-net.go.jp/kansai

街に、ルネッサンス
UR 都市機構